

地方創生先行型交付金事業検証資料

事業①

所属	政策経営課
----	-------

事業名	地方版総合戦略策定事業	交付金の種類	基礎交付
総事業費	8,330千円	交付金充当額	8,288千円
事業期間	平成27年4月1日 ～ 平成28年3月31日		
事業概要	国のまち・ひと・しごと創生総合戦略に合わせて、本市の「地方人口ビジョン」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定する。 ○有識者会議の委員の報償費：308千円(うち交付対象266千円) ○人口ビジョン及び総合戦略策定に向けた調査、分析業務委託料：8,022千円		
KPI値(事業前)	設定なし		
KPI値(事業後)	—		
事業の効果 ※具体的に	桑名市人口ビジョン及び桑名市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定したことにより、本市の地方創生を戦略的に推進する基盤ができた。また、本市の総合戦略は桑名市総合計画から地方創生に資する施策等を引用し構成しているため、本市の目指す姿が明確になり、事業の円滑な推進に寄与する。		
事業の改善点	地方版総合戦略は適切なPDCAサイクルの中で、柔軟な変更が可能であるが、本市の総合計画との整合性を常に保つ必要があるため、改訂する際は十分な検討をする必要がある。		
今後の展開	桑名市地方創生会議による各事業のKPI値検証を実施する中で、必要な改変等は不断に行う。その際は、上記改善点にあるように桑名市総合計画との整合性を十分に検討し実施する。		

地方創生先行型交付金事業検証資料

事業②

所属	ブランド推進課
----	---------

事業名	ブランド推進事業	交付金の種類	基礎交付
総事業費	7,847千円	交付金充当額	7,847千円
事業期間	平成27年4月1日 ～ 平成28年3月31日		
事業概要	桑名に訪れたい、住みたい、住み続けたいと思う方を増やすため、本市が有する地域資源の魅力や価値を学ぶことができる講座、プログラム等を実施するとともに、これからの桑名の担い手(地域人材)を育成する。 ○市民や来訪者が深く桑名を知るための体験交流型プログラムを造成し、「(仮称)プレ桑名オンパク」を開催するとともに、その運営人材を育成する経費:2,181千円 (仮称)プレ桑名オンパク開催業務委託料2,181千円 ○本市の食文化とそのストーリーを掘りおこし、全国に発信する「桑名ほんもの食博」を開催する経費:5,666千円 桑名ほんもの食博に係る調査・企画・イベント運営等業務委託料2,166千円 桑名の食関連サイトランディングページの作成業務委託料:3,500千円		
KPI値(事業前)	・オンパク参加者数:100人 ・オンパクプログラム数:10プログラム ・桑名ほんもの食博集客数:200人		
KPI値(事業後)	・オンパク参加者数:183人 ・オンパクプログラム数:10プログラム ・桑名ほんもの食博集客数:900人		
事業の効果 ※具体的に	「プレ桑名ほんぱく」については、予定通り10プログラムを企画し、次年度以降の本格開催に向けての基盤を整えることができた。また、桑名の食文化をはじめとする地域資源の魅力を、イベント開催や民間事業者サイトの活用により、市内外に広く発信することができた。		
事業の改善点	桑名ほんぱくの存在、取組についてより多くの市民に知ってもらい、企画運営者・協力者・参加者を増やすことが必要である。 食関連ホームページをより多くの人に活用してもらえるような広報活動が必要である。		
今後の展開	プレ桑名ほんぱくを「桑名ほんぱく」として本格開催し、プログラムの拡充及び人材育成に注力する。 食文化をはじめとする地域資源の魅力を効果的かつ継続的に発信し、観光誘客だけでなく、市民の郷土に対する誇りや愛着を醸成し、地域経済の活性化につなげていく。		

地方創生先行型交付金事業検証資料

事業③

所属	ブランド推進課
----	---------

事業名	全員参加型プラットフォーム推進事業	交付金の種類	基礎交付
総事業費	11,880千円	交付金充当額	10,188千円
事業期間	平成27年4月1日 ～ 平成28年3月31日		
事業概要	市民ニーズや市場に、より近い政策等を形成、実現するため、インターネット上でさまざまなアイデアの募集や意見交換ができる共創プラットフォームページを開設するとともに、本市の持つ観光、暮らし、特産品等の魅力と本市の認知度向上につなげる。 ○インターネット上での共創プラットフォーム(自由にアイデアを投稿できるサイト)の構築・運営・調査・分析経費:11,880千円 ウェブサイト構築・コンサルティング等業務委託料11,880千円(うち交付対象10,188千円)		
KPI値(事業前)	・投稿アイデア数:1,000アイデア ・市政に対する市民の意見・声を伝える場や機会に満足している市民の割合:6%		
KPI値(事業後)	・投稿アイデア数:976アイデア ・市政に対する市民の意見・声を伝える場や機会に満足している市民の割合:8.4%		
事業の効果 ※具体的に	・市民及び全国から976のアイデアが出された ・Blabo会員約14,000人に向けて桑名の新商品開発へのお題を知ってもらう機会を得た ・本事業へ市内事業者から5社の参加があり、3社の新商品が開発された		
事業の改善点	・参加事業者のうち2社が最終的に新商品の発表まで行かなかったため、お題の出し方や開発までのプロセスを見直す必要がある ・受託事業者と協議を重ねて、開発後の販売先について目途を付ける必要がある		
今後の展開	・新商品が実現した事業者には、今後市内および全国での販売を進めていただくよう依頼をする ・事業のPRを広報紙、ホームページなどで実施する		

地方創生先行型交付金事業検証資料

事業④

所属	情報政策課
----	-------

事業名	情報政策事業	交付金の種類	基礎交付
総事業費	3,942千円	交付金充当額	3,525千円
事業期間	平成27年4月1日 ～ 平成28年3月31日		
事業概要	桑名市が保有する情報をオープンデータとしてインターネットに開示し、市民、企業が自由に活用できる環境を整え、行政の透明化や市民協働の推進、新しいビジネス環境の創造を図る。 ○インターネット上でのデータカタログサイト(市が保有する情報を開示し、自由に活用できるほか、市民からの要望を受け付ける機能、利用者同士がコミュニケーションできる機能等を含む)の構築・運営、周知啓発経費:3,942千円 データカタログサイト構築・サイト運用等業務委託料3,942千円(うち交付対象3,525千円)		
KPI値(事業前)	・オープンデータの揭示データ数:30件 ・オープンデータのダウンロード数:50件		
KPI値(事業後)	・オープンデータの揭示データ数:30件 ・オープンデータのダウンロード数:1,499件		
事業の効果 ※具体的に	当初想定していたダウンロード数を大幅に上回り、市民や企業が桑名市の情報に興味を持ち、有効に活用していることが推測できる。また、一般の利用者によって、桑名市が掲載したオープンデータを、より利用しやすい形で加工したデータの投稿があり、官民協働による公共サービスの提供を実現できている。		
事業の改善点	先進の地方公共団体では、桑名市よりも非常に多くのデータを掲載している団体もあり、オープンデータを活性化させるためには、さらに多くのデータの掲載が必要であると考えられる。各所属が積極的にデータ掲載するように呼びかけ、オープンデータの掲載数を増やし、オープンデータポータルサイトが利用される機会を少しでも増やせるように努める。		
今後の展開	定期的に他の地方公共団体のオープンデータの事例を参考にし、積極的に取り入れていく。また、桑名市のホームページに掲載されているデータをオープンデータポータルサイトにも掲載する。 より多くの情報をオープンデータとして開示することで、行政の透明性を高めると共に、行政への市民参加を促進し、「オープンガバメント」を推進する。		

地方創生先行型交付金事業検証資料

事業⑤

所属	商工観光課
----	-------

事業名	子ども職業体験事業	交付金の種類	基礎交付
総事業費	500千円	交付金充当額	500千円
事業期間	平成27年4月1日 ～ 平成28年3月31日		
事業概要	子どもたちが職業体験を通じて、働く喜び、充実感を学ぶことで、仕事に興味を持ち、将来の職業選択の一助とするなど、参加者の中から未来の伝統産業等の担い手の育成を目的とする。 ○市内の事業所に協力を依頼し、子ども達に職業体験の場を提供するとともに、事業所自身が子供の受け入れを通じて、未来の担い手を育てていくための経費。依頼事業所は鋳物、鉄工、食品、建具、生花、千羽鶴等を予定：500千円 負担金500千円		
KPI値(事業前)	・参加子ども数：100名		
KPI値(事業後)	・参加子ども数：300名		
事業の効果 ※具体的に	市内の事業所18社に参加いただき、子どもたちが職業体験を通じて、働く喜び、充実感を学ぶことで、仕事に興味を持ち、将来の職業選択の一助とするなど、参加者の中から未来の伝統産業等の担い手の育成を目的とし、子供に人気の消防士やプロサッカー体験から市の伝統産業である鋳物づくりや千羽鶴折り、和菓子づくりなどを体験し、働くことの楽しさや市の伝統産業について理解を深めた。		
事業の改善点	一度に体験できる人数が限られるため、希望した職業体験に参加できない子供も多くいたため、今後は参加できる人数を増やすなど受け入れ態勢の充実が必要である。		
今後の展開	本事業において習得した経験を活かし、市内イベントなどにおいて、子ども職業体験を広めていき、子供たちに働く喜びや市の伝統産業について周知を図っていく。		

地方創生先行型交付金事業検証資料

事業⑥

所属	商工観光課 多度地域振興課
----	------------------

事業名	多度山観光PR事業	交付金の種類	基礎交付
総事業費	1,231千円	交付金充当額	1,231千円
事業期間	平成27年4月1日 ～ 平成28年3月31日		
事業概要	地域鉄道の活性化及び観光を軸とした地域の活性化のため、安全・安心に楽しめるハイキングをPRするなど、交流拠点「多度山」の魅力を発信する。 ○地方鉄道を利用し、ハイキングを安全・安心に行うなど、地方鉄道の活性化と多度山周辺(多度駅前・多度峡・多度大社など)の魅力を伝えるため、多度周辺の商店街・観光関係者等とPRの方向性を協議・分析し、パンフレット作成を行うための経費:1,231千円 多度山観光PR業務委託料1,231千円		
KPI値(事業前)	・多度地域の観光入込客数:1,550,000人		
KPI値(事業後)	・多度地域の観光入込客数:1,550,000人		
事業の効果 ※具体的に	多度山や木曾三川などの自然資源と多度大社などの歴史的資源を有効活用し観光客の誘客を図った。		
事業の改善点	多度大社周辺の歴史的な観光資源を前面に出し、多度山へのハイキングに持ち込めるような誘客が必要		
今後の展開	多度地区の持っている観光資源を市外に発信することにより、観光の振興を図っていきたい。		

地方創生先行型交付金事業検証資料

事業⑦

所属	商工観光課
----	-------

事業名	観光PR等推進事業	交付金の種類	基礎交付
総事業費	10,994千円	交付金充当額	9,500千円
事業期間	平成27年4月1日 ～ 平成28年3月31日		
事業概要	桑名市に訪れたい、住みたい、住み続けたいと感じてもらえるように、PRを行い、観光誘致拡大を図る。また、外国人が気軽に観光に訪れるような環境づくりを行う。 ○訪日外国人の受け入れに対応するガイドブック(日本語版と英語・中国語・韓国語)の活用と、モニターツアー等を通じた体験調査を行い、参加者のリアルなコメントや写真を用いて誌面などのプロモーションツールを作成するための経費:10,994千円 モニターツアー等プロモーション・ガイドブック作成業務委託料10,994千円(うち交付対象9,500千円)		
KPI値(事業前)	・観光入込客数:10,050,000人		
KPI値(事業後)	・観光入込客数:18,156,272人		
事業の効果 ※具体的に	観光ガイドブックは、日本語、英語、中国語(繁体字、簡体字)、韓国語の4言語を作成。実際に外国人にモデルになってもらい、体験してもらった。市内観光施設や店舗、名古屋市内の宿泊施設に設置してある。 また、桑名への来訪者を増やすため、企業の福利厚生会員を有するリロクラブと提携し、ホームページへの情報掲載や、メールマガジンの配信、桑名来訪ツアーの実施、折込チラシや桑名市認知拡大アンケート調査と分析を実施した。		
事業の改善点	ガイドブックは27年度末に納品されたばかりなので、設置個所を増やす方法を考え、PRを強化する。 リロクラブにおいては、来訪ツアーを宿泊と日帰りで企画したが、出発地を近隣である和歌山としたため、宿泊ツアーは参加者が催行最少人数に満たず実施できなかった。		
今後の展開	今後増えると予想される外国人来訪者の資料として、ガイドブックを活用することは基より、桑名市を訪れてもらえるように呼び込むことができるPR資料として、有効的と考える施設などに設置していく。 市内宿泊施設では、今回リロクラブとの繋がりができたので、契約が整えば桑名市への来訪拡大の情報発信などが継続される。		

地方創生先行型交付金事業検証資料

事業⑧

所属	消防本部総務課
----	---------

事業名	消防団活動事業	交付金の種類	基礎交付
総事業費	3,538千円	交付金充当額	3,538千円
事業期間	平成27年4月1日 ～ 平成28年3月31日		
事業概要	消防団は、地域の担い手でありながら、装備品の安全性に対する不安などで家族から理解を得られにくいなどの問題がある。 現団員の継続性を高め、女性や若い世代(大学生)などを含めた新規の団員を確保するためにも装備品を充実させ、安全性を確保する。 ○桑名市の持つ特殊な地域性(海拔0m地帯や輪中地域)から、啓発活動を進めるとともに、水防活動・震災活動・警戒活動・訓練等に使用し、特に安全性を確保するために必要となる消防団装備に対して交付する補助金経費:3,538千円 補助金3,538千円		
KPI値(事業前)	・消防団員の定員充足率:95.0% ・大学生等消防団員数:5名 ・女性消防団員数:20名		
KPI値(事業後)	・消防団員の定員充足率:88.1% ・大学生等消防団員数:1名 ・女性消防団員数:11名		
事業の効果 ※具体的に	従前の支給品である長靴と比較して安全性が大幅に向上した。災害現場において足を負傷する公務災害が発生していたが、支給後は足部での公務災害は発生していない。		
事業の改善点	危険な災害現場で活動する消防団員において装備及び資器材の充実は必須の課題となるため、今後さらに消防団員の安全確保を考慮した装備品等の充実を図る必要がある。		
今後の展開	地域の担い手である消防団員の装備の拡充及び充実を図ることで消防団員の公務災害ゼロを目標とする。また大規模災害時でも十分な活動が出来るように取り組むことで安心で安全なまちづくりにつなげる。		

地方創生先行型交付金事業検証資料

事業⑨

所属	防災・危機管理課
----	----------

事業名	緊急情報伝達事業	交付金の種類	基礎交付
総事業費	2,003千円	交付金充当額	2,003千円
事業期間	平成27年4月1日 ～ 平成28年3月31日		
事業概要	東海地震、南海トラフ巨大地震等から市民自らが命を守る行動をとるために、桑名市災害時緊急メールと全国瞬時警報システムを連携させ情報共有を促進し、市民の防災・意識の向上を図る。 ○きめ細かな災害情報を瞬時に把握することができるように、桑名市災害時緊急メール(防災ホットメール)を全国瞬時警報システム(JーALERT)に連動させる環境を確保する経費(保守含む):2,003千円 防災ホットメール連動導入・運営保守管理業務委託料2,003千円		
KPI値(事業前)	・ホットメール登録者数:6,500件 ・「災害の心配が少ない」と思う市民の割合:40%		
KPI値(事業後)	・ホットメール登録者数:6,240件 ・「災害の心配が少ない」と思う市民の割合:49%		
事業の効果 ※具体的に	・市民の方が災害情報を瞬時に把握でき、より安心安全を得ることができた ・様々な有事災害への円滑な情報伝達が可能となった		
事業の改善点	・ホットメール登録者数の促進 ・携帯電話切替え(買換え)時の移行の簡略化		
今後の展開	・より効果的な事業とするにはJアラートと防災行政無線との連動を検討実施する ・危機管理意識の高揚とホットメールの周知活動		

地方創生先行型交付金事業検証資料

事業⑩

所属	教育委員会事務局 指導課
----	-----------------

事業名	ふるさと発信力育成事業	交付金の種類	基礎交付
総事業費	496千円	交付金充当額	496千円
事業期間	平成27年4月1日 ～ 平成28年3月31日		
事業概要	「人と文化が交流する開かれたまちづくり」の一環として、桑名市と友好都市(福島県白河市・埼玉県行田市)の中学生による交流を通じて、ふるさとの誇りの源泉となる固有の歴史・文化・自然などの地域の魅力を再発見し、それを発信・伝える力を身につけることで、郷土への愛着と誇りを持つ児童・生徒の育成を図る。 ○友好都市3市の中学生の交流の場として、「防災・減災」や「いじめ」など中学生に身近なテーマの「サミット」を開催する経費:346千円 友好都市交流業務委託料346千円 ○ふるさと固有の歴史・文化・自然などの地域の魅力の再発見を行うなど、同サミットの事前学習のための調査や資料作成等に必要な経費:150千円 事前調査旅費99千円 事前学習・還流報告関係事務費51千円		
KPI値(事業前)	・サミット参加生徒がサミット後に各校で還元活動(学んできたことを他の生徒達に広める活動)を実施した際の対象生徒数:900名 ・サミットの事前・事後学習会に参加したのべ生徒数:12人		
KPI値(事業後)	・サミット参加生徒がサミット後に各校で還元活動(学んできたことを他の生徒達に広める活動)を実施した際の対象生徒数:2122名 ・サミットの事前・事後学習会に参加したのべ生徒数:20人		
事業の効果 ※具体的に	・中学生が、学校のみならず桑名の代表として、他市の中学生と交流、意見交換をすることそのものが大変意義深い。貴重な経験の提供の場となった。 ・他市の様子を学び、交流や意見交換から学んだことを自分の学校にフィードバックする経験は、さらに自らの学びと思考を深化させるものであり、一枚のパネルにまとめあげた作業と各校での発表や展示の機会を通して、参加生徒のみならず、全校生徒がいじめの防止や他地域の理解、何かに参加することの意義などについて、学ぶこととなった。 ・今年度も、前年度に引き続き、本事業参加者のうち2名が、文部科学省主催の全国いじめ問題子どもサミットに三重県代表として、参加した。		
事業の改善点	・いじめの問題にかかわっては、より学校で日頃から取り組まれている活動をベースに考え合うものにしたい。 ・三市交流という大きな目的からすれば、さらなる文化交流の機会も工夫したい。		
今後の展開	3つの都市の小学生や中学生が持続可能な方法で交流を深められるようなしくみを整え、日常的な情報や手紙等のやりとりができるようにしていきたい。 姉妹都市交流に留まらず、市内および県内外の小学生や中学生の様々な交流の機会に積極的に参加しようとする児童生徒を育成し、その経験を学校内・市内にフィードバックできる機会を設定したい。		

地方創生先行型交付金事業検証資料

事業⑪

所属	教育委員会事務局 指導課
----	-----------------

事業名	小学校英語活動推進事業	交付金の種類	基礎交付
総事業費	1,853千円	交付金充当額	1,853千円
事業期間	平成27年4月1日 ～ 平成28年3月31日		
事業概要	多文化に触れることで、ふるさとに対する誇りと愛着を持ち、グローバルな社会に対応できる国際感覚を身につけた市民を育成するため、幼少期(小学生)から積極的にコミュニケーションを図る素地を養う。 ○多文化に親しむ手段としての「英語キャンプ」を実施する経費:511千円 英語キャンプ業務委託料160千円 英語キャンプ施設等借り上げ料316千円 英語キャンプ保険料16千円 英語キャンプ事務費19千円 ○小学校英語コミュニケーション推進校を設置し、「音声指導面での先進事例の研究」や「効果的なチームティーチング体制の研究」などの取組を進めるための経費:1,342千円 臨時支援員賃金1,042千円 英語コミュニケーション研究費300千円		
KPI値(事業前)	・英語キャンプに参加した児童生徒数:75人 ・小学校英語活動事業における児童の受ける事業時数:300時間		
KPI値(事業後)	・英語キャンプに参加した児童生徒数:74人 ・小学校英語活動事業における児童の受ける事業時数:520時間		
事業の効果 ※具体的に	・英語キャンプでは、多くの小中学生が参加し、英語を使って積極的に様々な活動に取り組むことができた。事後アンケートでは、ALTや参加者と英語を使って積極的に参加することができたかという設問に対して、86%が肯定的な回答をしている。 ・小学校英語コミュニケーション推進事業では、研究推進校2校において、専属の英語活動支援員を配置し、チーム・ティーチングを行った。事後アンケートでは、約90%の3・4年生が「英語の授業が楽しいですか」という設問に肯定的な回答をしている。		
事業の改善点	・児童生徒が積極的に英語をつかってみようと思えるような環境づくりを進める必要がある。英語キャンプに参加した児童生徒の意欲を継続させることが課題である。		
今後の展開	今後とも事業の改善を行い、KPI値の見直しを図る。		

地方創生先行型交付金事業検証資料

事業⑫

所属	教育委員会事務局 指導課
----	-----------------

事業名	桑名力再発見研究事業	交付金の種類	基礎交付
総事業費	929千円	交付金充当額	929千円
事業期間	平成27年4月1日 ～ 平成28年3月31日		
事業概要	桑名にゆかりのある偉人について深く掘り下げて学び、実際にゆかりのある地へ赴き、調査・研究を行うことで、地域の魅力を再発見し、それを発信・伝える力を身につけることで、郷土への愛着を持つ児童・生徒の育成を図る。 ○ふるさとに対する誇りの回復のために、アドバイザーと共同により、授業で活用する児童生徒への指導資料の作成を行うためのアドバイザーの報償費や資料作成等経費：929千円 アドバイザー報償費150千円 視察関係旅費97千円 指導用資料、ワークシート作成印刷費682千円		
KPI値(事業前)	・桑名の歴史や文化、桑名にゆかりのある偉人等についての指導資料の作成の際に行ったフィールドワーク箇所数：10箇所		
KPI値(事業後)	・桑名の歴史や文化、桑名にゆかりのある偉人等についての指導資料の作成の際に行ったフィールドワーク箇所数：15箇所		
事業の効果 ※具体的に	桑名の歴史再発見に寄与する研究資料「見る・知る歴史の中のくわな」を作成し、市内小中学校に配布したことにより、地域の魅力を再発見し、それを発信・伝える力を身につけることで、郷土への愛着を持つ児童・生徒の育成を図る基盤ができた。		
事業の改善点	地域の魅力を再発見し、それを発信・伝える力を身につけることで、郷土への愛着を持つ児童・生徒の育成を図るため、改訂する際には、題材や活用方法等、十分な検討をする必要がある。		
今後の展開	社会科をはじめ、生活科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等における、本研究資料「見る・知る歴史の中のくわな」の活用を行う。		

地方創生先行型交付金事業検証資料

事業⑬

所属	教育委員会事務局 指導課
----	-----------------

事業名	桑名力発信推進事業	交付金の種類	基礎交付
総事業費	1,930千円	交付金充当額	1,930千円
事業期間	平成27年4月1日 ～ 平成28年3月31日		
事業概要	日本の匠の技、桑名市の誇る伝統文化「桑名の千羽鶴」への理解や折り方を習得することで、魅力を再発見し、それを発信・伝える力を身につけることで、郷土への愛着を持つ児童・生徒の育成を図るとともに、桑名市の持つ資源の価値を向上させる。 ○2020年に開催される東京五輪に向けて、小学校の地域開放イベントで、児童が地域の方々に「桑名の千羽鶴」の折り方を披露したり、アドバイザーによって中学生が職場体験のお礼に鶴とその説明を添えることができるようになるために必要な技能を学ぶための講師謝礼や原材料費等:1,930千円 講座講師報償費360千円 連鶴材料費等1,570千円		
KPI値(事業前)	・桑名の千羽鶴を折る経験をした児童生徒数:6,000人		
KPI値(事業後)	・桑名の千羽鶴を折る経験をした児童生徒数:3,232人		
事業の効果 ※具体的に	・桑名の千羽鶴のことは知ってはいても、実際に折った経験がない児童生徒が多い中、桑名市として、大変貴重な機会提供することができた。 ・文化に触れるということは、実際に体験することであり、その技術を身につけることであり、児童生徒が今後、多くの人にその経験や技術を伝える役割を果たしてくれるもの期待される。 ・実際に折ったものを感謝の意を込めて「贈る」という経験と重ねたことで、より文化的な体験がより身近なものとして実感させることができた。		
事業の改善点	・中学校での実施については、年度当初から計画的に時間割に組み込まないと学年全体での実施は難しかった。 ・予算化した事業としての継続は困難であるため、本年度の経験と人脈を各学校が実態にあわせて活用していくことが期待される。		
今後の展開	各学校が本年度の経験と人脈を生かし、校内で下級生に伝えていく機会や親子で学ぶ機会、地域の方とともに親しむ機会などを実態にあわせて創り出していくことが期待される。		

地方創生先行型交付金事業検証資料

事業⑭

所属	スポーツ振興課
----	---------

事業名	スポーツ大会等運営事業	交付金の種類	基礎交付
総事業費	484千円	交付金充当額	480千円
事業期間	平成27年4月1日 ～ 平成28年3月31日		
事業概要	2020年に開催される東京五輪のボート競技及びその他の競技に参加する国と地域の事前キャンプを誘致することにより、観光振興等、地域の活性化を図ることを目的とする。 ○桑名市(三重県)海津市(岐阜県)及び愛西市(愛知県)が市間で連携し、長良川国際レガッタコース等での事前キャンプ誘致をPRするための経費:484千円(うち交付対象480千円)		
KPI値(事業前)	・PRホームページアクセス件数:500件		
KPI値(事業後)	・PRホームページアクセス件数:902件		
事業の効果 ※具体的に	平成27年3月に英国五輪委員会が、長良川国際レガッタコース(海津市)を含む岐阜県内の6施設を視察し、11月に岐阜県と英国五輪委員会が岐阜県内の施設で事前キャンプを行うことで正式合意しました。具体的な競技種目や期間、選手団の規模は今後協議することとなっていますが、正式に長良川国際レガッタコース等での事前キャンプが決定すれば、地元の世界のトップアスリートを迎えることで、スポーツ振興だけではなく、地域の活性化に繋がります。		
事業の改善点	リオデジャネイロ五輪(平成28年8月開催)終了後に、東京五輪の事前キャンプ誘致が本格化してきます。長良川国際レガッタコース等を事前キャンプ地としていただくためにも、多言語版のPR資料等を作成し、より多くの国々に幅広くアピールしていく必要があります。		
今後の展開	現在のところ、岐阜県と英国五輪委員会が岐阜県内の施設で事前合宿をすることで正式合意をし、長良川国際レガッタコース等においても、英国の合宿が有力となっています。ただ、正式な決定ではないため、岐阜県と連携し、英国の動向を注視しつつ、他の国々へのアピールも継続していく。		

地方創生先行型交付金事業検証資料

事業⑮

所属	文化課(博物館)
----	----------

事業名	資料保存事業	交付金の種類	基礎交付
総事業費	5,361千円	交付金充当額	4,668千円
事業期間	平成27年4月1日 ～ 平成28年3月31日		
事業概要	桑名市の無形文化財にも指定されている「桑名の千羽鶴」の折紙本『秘伝千羽鶴折形』や、桑名城絵図に代表される桑名城に関する文献資料などの歴史的価値あるものを活用し、国内外へ情報発信することで観光客の呼び込みを行う。 ○「桑名の千羽鶴」に関する貴重な原典(『秘伝千羽鶴折形』)を次世代へ伝承するため、原典の保存と資料集の作成を行い、「連鶴発祥の地桑名」のPR活動を行う経費:2,021千円 原典復元及び資料作成業務委託2,021千円(うち交付対象1,759千円) ※資料は一般市民向けに販売するため、刊行物等売払収入は、本交付金対象経費から控除している。 ○平成26年度に寄贈された桑名城絵図の初公開とともにこれまで調査してきた桑名城に関する絵図資料の展覧会開催経費3,340千円(うち交付対象2,909千円、経費に応じてそれぞれ按分) 展示品輸送・展示業務委託1,974千円 展示会場設営・警備業務委託48千円 展示会場パネル等印刷費1,318千円		
KPI値(事業前)	・『秘伝千羽鶴折形』の修復過程を公開したホームページのアクセス数:1,000件 ・展覧会来館者数:2,000名		
KPI値(事業後)	・『秘伝千羽鶴折形』の修復過程を公開したホームページのアクセス数:4817件 ・展覧会来館者数:1580名		
事業の効果 ※具体的に	・伊勢湾台風による水害等で痛んでいた連鶴の原典資料を修復し、その作業過程や資料や義道についてをホームページで公開した。東京や伊豆・大阪など遠方からも問合せがあり、アクセス数も伸びた。 ・修復完了後、連鶴に関する原典資料の他、考案者魯縞庵義道に関する資料を合わせて掲載した『連鶴史料集—魯縞庵義道と桑名の千羽鶴—』を刊行した。巻末に修復の方法も掲載し、資料保存の啓発を兼ねた。販売すぐから反響があり、桑名発の文化に深い関心が寄せられている。 ・桑名城に関する初めての城絵図展「徳川四天王の城—桑名城絵図展」を開催した。城郭が描かれた絵図41点、城下図10点、桑名城について書かれた書籍など34点、浮世絵などに描かれた桑名城18点、合計100点を超える資料を展示公開した。桑名城は明治初期に廃城となり、石垣も四日市築港の資材にされるなど、往時の面影を留めていないため城郭史に触れられる事も少なく、今回の展示で初めて桑名城の姿を知ったという市民が大半であった。		
事業の改善点	・情報発信力の不足を痛感している。せめてもと『連鶴史料集—魯縞庵義道と桑名の千羽鶴—』は全国の書店で入手が可能となる方法で販売した。		
今後の展開	・サミットが三重県で開催されると同時に、桑名ではジュニアサミットが開催される。集まる7カ国の高校生に「桑名の千羽鶴」をプレゼントするが、このように、今後は桑名発だけではなく、日本の文化としての視点を考慮する必要がある、英語表記を行うようにする。 - また、新たに発見された連鶴を具現化する。 ・多くの市民に桑名城をアピール出来た。最終目標は再建であるが、その前に城郭をビジュアル的に見せてより多くの関心を引く工夫が必要である。		

地方創生先行型交付金事業検証資料

事業⑩

所属	商工観光課
----	-------

事業名	インバウンド環境整備事業	交付金の種類	上乗せ交付タイプ I
総事業費	13,187千円	交付金充当額	13,187千円
事業期間	平成27年4月1日 ～ 平成28年3月31日		
事業概要	伊勢志摩サミットの開催に向け、海外に桑名の魅力を発信し、海外からの桑名への来訪者の増加を目指す。 ○海外向けに桑名をPRするVTRを作成し、多くの人に桑名を知ってもらい、また映像によって効果的に桑名の魅力を感じてもらい、観光誘客の増大を図る。 委託料(プロモーションビデオ作製・放映):6,500千円 ○サミットの開催に際して、多く来訪される外国人に対応して、駅からの代表的な観光コース等の案内表示などを多言語(英語、中国語、韓国など)表記にすることで、外国人が訪れやすい環境を整える。また、市の主要な観光スポットの説明を、外国語に翻訳し、その説明をQRコードで取得し、周遊してもらえようにする。 委託料(多言語案内板表示等):4,795千円 ○市を訪れる外国人観光客が情報の入手や、SNSなどでの情報の発信を行いやすい環境を作るため、市内のWi-Fi環境を整える。 委託料(無線LAN整備):1,718千円 印刷製本費(Wi-Fi設置周知):174千円		
KPI値(事業前)	・桑名市における延べ外国人宿泊者数:390人 ・多言語による観光案内の表示数:28箇所 ・Free Wi-Fi設置数:10箇所		
KPI値(事業後)	・桑名市における延べ外国人宿泊者数:390人 ・多言語による観光案内の表示数:12箇所 ・Free Wi-Fi設置数:6箇所		
事業の効果 ※具体的に	PVIは15秒と2分を作成し、中部国際空港などにおいて放映した。 市内案内表示板の多言語化は、桑名駅を集中的に、六華苑までの周遊コースに12箇所整備した。 Free-WiFiは案内板と同じく、周遊コース付近の施設などに6箇所エリア設置した。		
事業の改善点	案内板について、周遊コース上は整備できたが、目的地になる観光スポットが多言語対応できていないため、道順の利便性は向上したが、訪れたところの説明がわからず、面白味が半減する。		
今後の展開	観光スポットの歴史や解説が解ればより一層の面白さが味わえるため、多言語看板だけでなく、ホームページなどWi-Fi環境やインターネットを利用した情報発信なども展開していく。		